

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191400126		
法人名	有限会社 トリノ		
事業所名	グループホーム あい戸倉 蒲公英(1階ユニット)		
所在地	函館市戸倉町161番地1		
自己評価作成日	平成25年9月27日	評価結果市町村受理日	平成26年1月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・アットホームな居心地の良い場として地域に根差し、地域に必要な施設になる事を目指しています。  
 ・ご利用者、ご家族を支え職員も共に共感し、その人らしい尊厳ある生活を支援します。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0191400126-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0191400126-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成25年11月26日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は静かな川沿いに建てられており、四季折々の季節の変化を楽しめる景観に恵まれている。大型ショッピング街も間近にあり、買い物等の利便性も高い立地にある。母体の会社は、市内で複数の介護事業を展開している。当事業所には小規模多機能型居宅介護支援事業所が併設され、相互の協力体制がしっかりと築かれており、補完しあうことで安全、安心の向上に結びついている。当事業所の優れている点は、ケアの基本について自己点検が徹底されている点である。32項目にわたる虐待チェックリストを作成し、月に一度介護職員が自己点検する場を設け、全項目を他の職員の前で自己点検することで、抑制も虐待もないケアを目指している。その取り組みを維持する努力から、介護への真摯な姿勢が感じられる。ケアに対する自己点検は、自己満足介護や一人勝手のケアを排し、透明性のある介護への必要不可欠な取り組みであり、今後も地域での信頼に満ちた介護の拠点として、大いに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	○	↓該当するものに○印		○	↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています(参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている(参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている(参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で理念を作り上げ、玄関に掲示している。又、個々のネームプレートの裏に入れ、常に意識して業務を行なえる様に身につけている。	理念は玄関に掲示し、毎日視認できるようにしている。また常時携帯している社員証の裏面に記載され、実践過程においていつも確認する体制でケアに臨んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	湯川3丁目町会に加入。H25.4月湯川3丁目町会総会に出席。日常的な挨拶を行ない施設行事(七夕、夏祭り)の際は地域の方々や近隣の商店や小学校に行事参加呼びかけ、ポスターを掲示してもらっている。近くのスーパー等に利用者と共に掛け地域の方々との日常的に交流出来る機会を作っている。H25.4月事前に地域へポスター掲示やポスティングを行い事業所前道路のゴミ拾いを利用者と共にやっているが、地域の方の参加はなかった。	地元町内会との交流を始めとし、小学生、近隣の商店とのふれあいを大切に維持している。事業所前の通りの清掃やゴミ拾いなどを行っており、少しずつ地域との交流の輪を広げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を活かし研修内容報告を行ったり、ご家族や地域包括支援センター職員と関わる事から認知症の理解と認知症ケアの啓発に努めており、H25.7月には地域の小学校や保育園へ交流会、認知症サポーター養成講座の開催の促しを行っており、ヘルパー2級や認知症介護実践者実習生受入等も積極的に行ない人材育成に努めている。H25.9月函館認知症の人を支える会にご協力頂き「認知症予防・介護保険について」の勉強会を開催し、利用者、ご家族にも参加して頂き認知症・介護予防にむけて一緒に学ぶ機会を作っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催。ご家族の参加もあり沢山の意見を聞き事が出来ている。取組状況報告、話し合いはできている。要望や意見、苦情は早急に対応、改善に努め、サービス向上へとつながる様に努力している。	地域包括支援センターの職員や家族の代表が参加して運営推進会議を開催している。事業所からは行事の報告を行い、問題点などを議題として話し合い、サービス向上に努めている。	地域代表について役職に拘ることなく検討し、また議事録については、委員のみならず家族宅まで送付するように期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	普段は電話やメールのやり取りをしており、必要時には市町村担当者のもとへ相談へ出向くようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を設置。マニュアル、チェックシートを作成し月1回評価しサービス向上へ結びつけている。H25. 3月12日チェックシートを新様式へ変更し研修会を開催し、職員の理解を深め身体拘束をしないケアの実践に努めている。	虐待防止マニュアルの活用により、抑制や粗雑な言葉の乱用を防ぎ、圧力的なケアにならないように努めている。	虐待チェックシートの活用は、非常に優れた取り組みであり、他の介護関係者への見本となる介護実践といえる。今後も意欲的で原則を忘れないケアを継続することを大いに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を設置。マニュアル、チェックシートを作成し月1回評価しサービス向上に努めている。H25. 3月12日チェックシートを新様式へ変更、勉強会を開催し職員の意識を高め虐待防止に努めている。カンファレンスにて取組について評価を行い継続して日々の不適切なケアを職員間で話し合い、虐待につながらない様職業倫理を共有している。H25.7月9日合同カンファレンス時、職員による虐待防止の為、ストレスチェックシートを実施し、管理者と委員会は職員のストレス度を把握しカンファレンス時や日々の関わりの中でアドバイスするよう努めている。H25.8月外部講師に行政書士の方を招き、法人内研修虐待防止についてに参加し、研修報告書及び資料を閲覧できる様に整備している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	H24.12月11日法人内研修において外部講師に行政書士の方をお招きし「成年後見制度について」を開催し職員は参加し研修報告書及び資料を閲覧出来る様整備している。又利用者様・ご家族様へ日頃より聴き取りを行い必要な支援事業がないか把握に努め、第4回戸倉祭りでは、事前にご家族へアンケート調査を行い、行政書士の方をお招きし、無料でお悩み相談コーナーを設置し、相談できる機会を提供している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を取って説明を行い、契約時には出来る限り本人を交え、事業所のケアに関する考え方や取組、退去を含めた対応可能な範囲について説明を行なっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回外部評価を実施すると共に、玄関に苦情相談意見箱を設置、面会時や運営推進会議等で常に問いかけ、何でも言って頂ける様な雰囲気作りで留意し、意見要望はミーティングで話し合い反映させている。平成25年10月1日サービス向上委員会を設置予定とし、利用者、ご家族からの苦情・要望を聴き取るアンケート調査を実施予定としている。	面会時や介護計画の確認時に意見を聴取している。また、より積極的に意見を取り込むため、年に2回サービス満足度アンケートを実施し、意見や要望の把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回各ユニット毎と合同カンファレンスを行い職員の意見や要望を聞く様になっている。また、日頃からコミュニケーションを図る様に心掛け、問いかげや聞き取りを行う様になっている。必要時、個人面談を行っている。平成25年10月1日サービス向上委員会を設置予定とし、個別面談の実施を予定している。	職員の個人面談を実施し、要望や意見を広く深く聞き入れる体制を築いており、毎月の会議などの機会に、多彩な意見の聞き取りを実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も頻繁に現場に来ており、利用者や過ごしたり個別職員の業務や悩みを把握している。職員の資格取得に向けた支援や取得後の給与水準等の見直しや本人の意向を重視しながら活かせる様に環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修にはできるだけ多くの職員が受講できるようにしている。また、それらの研修報告は月1回の合同カンファレンスで発表したり勉強会を開催している。研修報告書は教育委員会が取りまとめ、全職員が閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南北海道GH協会に加入、法人外の研修会等には積極的に参加し、交流を図る様に努めている。H25.8月南北海道GH協会Bブロック管理者会議に参加し、Bブロック事業所間災害時応援連絡網に参加することが出来た。さらに地域の他施設と交流機会を作り、サービスの向上へ向けて取り組んでいく。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談は二人以上で行い生活状況を把握するように努め、又、できるだけ施設見学を行ってもらい聴きとり等の中でご本人の要望や不安を理解しようと工夫している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談や施設見学時に利用者とは別に時間を取って頂き、これまでの家族の苦労や今までのサービス利用状況等、経緯についてゆっくり聴き取りを行う様になっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な利用者には可能な限り柔軟な対応を行い、場合によっては他の事業所のサービスへつなげる等の対応を行える様法人内外の事業所と連携を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者の自立した日常生活の継続を共通認識とし、日々残存機能を活用して一緒に行えるよう工夫し、掃除、野菜の下処理、盛り付け、食器拭きや片付け、洗濯たたみ等一緒に行っている。利用者へ食事の味付けや調理方法を学ぶ機会を日々の関わりの中で設け助け合いながら馴染みの関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添い、日々の暮らしの中の出来事や気づきの情報を共有に努め、一緒に支える為に話し合いの場を多く持つ様にしている。行事へお誘いし一緒に過ごす時間作りやお手紙、必要時には電話で状態報告を行う様にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の方の面会や行事参加は多くあり、ご本人にとってのなじみの場所や関係性について少しずつ情報を収集できてきた。今後も関係性が途切れない様な個別支援に力をいれ聴き取りの強化に努めていく。	今までの馴染みの関係性が途切れることのないように努め、大切な関係性について職員で情報を共有し、個々の支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活の様子を観察し、皆で楽しく過ごす時間や場面作りを行ったり、利用者同士が良好な関係を保てる様に会話の仲介やテーブル席の配置を工夫。トラブルとにならないよう利用者同士の関係性について、職員間で情報を共有し見守りを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時には退去先に十分な情報提供を行うと共に利用者様、ご家族様の不安が無い様に相談助言を行うよう努めている。入院と同時に退去となってしまう利用者様へ職員手作りのメッセージと写真入りの色紙をお渡ししている。入院されている方には面会を行う等関わりを大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族からの情報をもとに実施しながら評価を行っている。日々の関わりを多く持ち日常会話や表情の中から引き出せる様に工夫している。	日常生活を支えていくなかで、利用者が嫌なことや受け入れない事由について把握し、職員で認識を共有して本人本位の支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時、本人、家族、関係者から聞き取りを行いフェイスシートを作成し、利用後も折に触れ少しずつ聴きとりをし把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、気づきを記録している。申し送りや経過記録、連絡ノートを活用し職員間での情報の共有に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族には日々の中で思いや要望を聞き取り、必要時には電話での相談や時間を取って頂き反映させるようにしている。日々のモニタリングを可能な限り行い、アセスメントを含め職員全員で意見交換し、カンファレンスを行っている。	介護計画は本人、家族の要望を軸にしながらか立案している。支援の内容を日々の生活の中で確認できる体制を確立しており、計画の実践がその日のモニタリングとなるような工夫された取り組みとなっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルし食事水分摂取量、排泄など身体的状況や暮らしの様子を記録している。ヒヤリハット、インシデント報告書も活用し情報共有、見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別の外支援助や通院等はニーズに合わせて柔軟な対応を行っている。今後、本人、家族の要望をもっと引き出せる様取り組んでいきたいと考えている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	少しずつではあるが地域に認知されてきており、町会員や教育機関と連携が取れるようになってきている。今後さらに強化出来る様に努力していく。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族が希望するかかりつけ医を継続している。要望に応じて受診・通院付き添い等も柔軟に対応し、適切な医療を受けられる様に支援している。	かかりつけ医は本人と家族の要望により継続している。受診は、職員が同行して明確な情報を伝え、また往診や訪問看護も活用しながら、医療面の安全を確保している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	H25.7月より訪問看護ステーション西堀と医療連携契約を締結し週1回と必要時の訪問を受けており、日々気付いた事は看護師に相談できる体制となっている。(24時間オンコール体制)今後も訪問看護師と連携し個々の利用者が適切な受診や支援を受けられるよう支援に努めたい。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際には医療機関へご家族の思いや生活状況など情報提供を行い、職員は頻りに面会しご家族とも情報交換しながら医療機関との連携を取り事業所に対応可能な段階で早期隊員できる様アプローチしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	これまで看取り支援に至ったケースはないが、今後看取り支援を行っていく上で、職員のスキルアップを目指し、年2回施設内研修としてターミナルケアについて勉強する機会を設け、H25.4月当事業所の看取り支援理念を職員全員で構築し掲示している。重度化に伴い家族へは随時、状態報告を密に行いながら話し合いを持ち、事業所が対応し得る最大のケアについて説明を行っている。	重度化した場合への指針は契約時に説明し、同意を得ながら生活を支えている。終末期のケアは実践的に経験がないが、看取り介護の研修を重ねながら、チームで取り組む姿勢で臨んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得てすべての職員が救急手当てや蘇生術の研修を受講し対応できる様にしている。緊急対応マニュアル整備し定期的な訓練も実施しながら周知徹底を図る。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て通報避難消火訓練、避難経路確認を定期的に行い、随時、誘導マニュアルの見直しを行っている。H25.6月には地震発生後の火災発生を想定し通報避難消火訓練を実施。H25.5月法人内介護付有料老人ホームあい・小規模多機能ハウスあいと災害時協力連携契約を締結。H25.9月には当事業所既存の防災マニュアルに津波についての対応方法を追記し、職員へ閲覧の呼びかけを行っている。H25.9月夜間想定での避難応援連絡網を活用した訓練を実施しご家族の参加も得られた。今後も運営推進会議を活かしさらに地域との協力体制が出来る様努めていく。	消防署の指導による火災想定災害訓練を年2回実施し、それ以外の地震や津波についてもマニュアル化して災害に備えている。また訓練の実施では、地域への呼びかけも行い、災害に備える体制を築いている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	H25.3月18日に法人内研修プライバシー保護・接遇マナーについての研修会を開催し職員が参加している。また、カンファレンスの折に、職員の意識向上を図ると共に、日々、職員間で点検、注意しあい利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。	尊厳の重視やプライバシーの尊重は、虐待チェックシートの徹底化を図ることで成果が上がってきている。研修と相互チェックによるサービス向上に、全力で取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせた声掛けや支援を行い、個々の思いや希望を表せる様な場面作りを工夫したり、些細な事でも本人が自己決定できるよう場面作り配慮している。(飲食物、衣服、休息や日々の過ごし方等)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが一人一人の体調に配慮しながらその日、その時の本人の気持ちを尊重し、出来る限り柔軟な対応で支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧品や服装をコーディネートする等、日々おしゃれを楽しめる様支援している。定期的な顔そりや散髪を行える訪問理容を受けられる様にしている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な調理補助(もやしひげ取り)茶碗拭きや片付けを一緒にいき、日課となっており、役割分担も出来ている。個々の嗜好品や苦手な物を把握し食事提供している。	食事は職員も同席同食を基本として、みんなで同じ話題となるように努めている。食事の前後の工程も無理のない範囲で参加し、笑いの多い食卓になるよう工夫し、楽しみのある食事になるよう取り組んでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事水分の提供を行い、日々摂取状況をチェックし記録して情報を共有、医療との連携も行いながら主治医と相談しラコールやエンシュア等を併用し、必要時には利用者、ご家族へ相談し食事を楽しむことが継続できる様個々の利用者の状態に合わせ食事形態の見直しを行い口から食べ続ける支援に努め、栄養面に配慮している。またH25.8月函館市保健福祉部主催の研修「最後まで口から食べる」に職員が参加し、経口摂取の継続や食事提供時の支援方法について学び、研修報告書及び資料を整備いつでも閲覧できるようにしている。H25.6月北海道GH協会Bブロック研修会や施設内研修にて栄養士より「栄養ケアマネジメントについて」学び高齢者の栄養バランスについて考慮した献立作りを心掛けている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後等個々の利用者様の生活スタイルや健康状態に合わせ、声掛けや個々の力に合わせ介助を行いケアを行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し個々に合わせたトイレ誘導を行っている。出来る限りトイレ排泄を促し排泄の自立へ向けた支援を継続していく。	トイレでの排泄となるよう取り組み、時間での誘導と排泄サインに注意しながら、その人なりの排泄の自立を目指して支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食生活に留意し繊維質の多い食材(ブルーン)や水分、乳製品を多く提供したり、散歩、軽作業などで適度に体を動かす機会を設け自然排便できるように取り組んでいる。自然排便が困難な方については、排泄チェック表を活用し主治医と相談し日々変化する状態を報告し下剤調整や水分摂取促しを行っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な入浴日は決めてはいるが、その日その時の個々の体調や意思を考慮し、タイミングの良い声掛けを工夫し柔軟な対応を行っている。より良い支援方法について職員間で話し合いを持つ様になっている。	週に2回を目処として入浴を楽しめるように努めている。拒否者には無理強いすることなく、単に洗浄行為にならないように取り組んでいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	布団やベッドと個々の生活習慣に合わせ安心して眠れる様に配慮している。日中は個々に合わせ必要時ソファで休息を促したり、個別対応を行っている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の利用者の服薬の目的、副作用、用法用量について理解しやすい様、個別にファイル化し密に訪問看護師や医療機関主治医と連携を図り症状の観察、確認に努めている。本人へ手渡し又は介助できちんと服用できたかの確認を行い、服薬チェックシートを活用し誤薬事故予防に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の力が発揮できる様、日々の役割や自身の「出来る」と思う気持ちを尊重、季節行事や日常の中で外出や趣味活動(カラオケ、針子、和裁、習字、塗り絵、折り紙)を支援し気分転換を図っている。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候、体調、気分に応じて利用者の希望に添える様心掛け支援に努めているが、今後、利用者、ご家族の希望、要望をもっと取り入れ、町会との連携も深め地域の方々との交流や外出等の支援にも努力していく。	季節のドライブも大切な外出として支援しているほか、向かいの軽喫茶や、川沿いの散歩などにも力点を置き、空いた時間を有効に利用し、戸外での外気浴ができるように努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の協力のもと所持金額を考慮し、個々の利用者の希望や力に応じて使用出来る様支援している(自動販売機利用や買い物時)。状態、状況変化時には密にご家族と相談し柔軟に対応している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいと希望される利用者へいつでも電話を利用して良い雰囲気作りと、ご家族からかかってくる電話も常時、利用者につなぎ、会話できる様支援している。馴染みの方や遠方に暮らす親族からのお手紙をご本人へお渡ししている。返事を書けない利用者に関しては、3ヶ月に1度ご家族へお渡ししている写真入りの日々の様子をお送りする予定。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族や地域の方も気軽に立ち寄れる様な雰囲気作りを心がけている。共有空間は清潔保持に配慮、ソファや食卓テーブルの配置は利用者の関係性を考慮し工夫している。又、安全で安心して過ごせる居心地の良い空間作りに努めている。季節感を取り入れた飾り付けも心がけている。家庭的な雰囲気を提供できる様、調理時の生活音や香りを感じて頂ける様職員の足音や会話の声を配慮している。浴室と脱衣所の温度差が生じないように温度調整を行う為室内温度計を設置し安全面にも配慮している。	共有空間である居間からは川岸の緑地帯が一望でき、採光も豊かであり、落ち着いた雰囲気が感じられる造作となっている。装飾も華美ではなく、家庭的な雰囲気が保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の気分に合わせソファでゆったりテレビを視聴できたり、廊下に一人掛けソファを設置し一人になれる空間作りや利用者同士が談話出来る様に工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、ご家族と相談の上、馴染みの物や個々の利用者の好み、生活スタイルに合わせて準備して頂き、日々安全で居心地の良い空間作りを考え工夫している。遠方より面会に来られたご家族が宿泊の希望を言いやすい様に職員から声掛けやきかけ作りを行う様努めている。	居室には馴染みの家具類が置かれており、居心地の良い雰囲気が醸し出されている。家族写真が室内に貼られており、ゆったりとした生活が営めるよう工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々のできる事、できない事を把握する様に努め、職員間で情報交換し環境の見直し整備を行っている。居室入口に目印や名前を付け迷わない様にし、一つでも自立した生活が出来るようにしている。		